

へい殺畜等手当金等交付規程等の一部を改正する件 新旧対照表
 ○動物用生物学的製剤基準（平成14年10月3日農林水産省告示第1567号）

(下線の部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>一般試験法</p> <p style="text-align: center;">外来性ウイルス否定試験法</p> <p>1・2 (略)</p> <p>3 特定ウイルス否定試験</p> <p>3.1 (略)</p> <p>3.2.1～3.2.4 (略)</p> <p>3.2.5 <u>牛ウイルス性下痢ウイルス否定試験</u></p> <p>3.2.5.1 試験方法</p> <p>牛精巢継代細胞を用いる。試料2mLを、1mLにつき20cm²以上の培養細胞に接種し、34～36℃で5日間培養し、CPEの有無を観察した後、細胞を10本の小試験管に分注して継代し、5日間培養し、CPEの有無を観察する。培養液を除き、1mL中約10⁵TCID₅₀の牛ウイルス性下痢ウイルスNose株を含む維持用培養液0.5mLをそれぞれに加え、34～36℃で7日間回転培養し、CPEの有無を観察する。</p> <p>3.2.5.2 判定</p> <p>観察期間中、<u>牛ウイルス性下痢ウイルス</u>接種前の培養細胞にCPEを認めず、接種後の培養細胞にCPEを認めたときは、この試験に適合とする。</p> <p>3.2.6～3.2.7 (略)</p> <p>3.2.8 <u>牛伝染性リンパ腫ウイルス</u>否定試験</p> <p>3.2.8.1 試験方法</p> <p>体重100～200Kgの健康な牛又は体重30～50Kgの健康な羊を用いる。</p> <p>試料10mLを1頭の牛又は羊の筋肉内に注射し、2及び3か月目に採血して得た血清について、受身赤血球凝集反応、酵素抗体反応又は寒天ゲル内沈降反応により<u>牛伝染性リンパ腫ウイルス抗体</u>の検出を行う。</p> <p>3.2.8.2 判定</p> <p><u>牛伝染性リンパ腫ウイルス</u>に対する抗体を認めないとき、この試験に適合とする。</p>	<p>一般試験法</p> <p style="text-align: center;">外来性ウイルス否定試験法</p> <p>1・2 (略)</p> <p>3 特定ウイルス否定試験</p> <p>3.1 (略)</p> <p>3.2.1～3.2.4 (略)</p> <p>3.2.5 <u>牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルス</u>否定試験</p> <p>3.2.5.1 試験方法</p> <p>牛精巢継代細胞を用いる。試料2mLを、1mLにつき20cm²以上の培養細胞に接種し、34～36℃で5日間培養し、CPEの有無を観察した後、細胞を10本の小試験管に分注して継代し、5日間培養し、CPEの有無を観察する。培養液を除き、1mL中約10⁵TCID₅₀の牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルスNose株を含む維持用培養液0.5mLをそれぞれに加え、34～36℃で7日間回転培養し、CPEの有無を観察する。</p> <p>3.2.5.2 判定</p> <p>観察期間中、<u>牛ウイルス性下痢-粘膜病ウイルス</u>接種前の培養細胞にCPEを認めず、接種後の培養細胞にCPEを認めたときは、この試験に適合とする。</p> <p>3.2.6～3.2.7 (略)</p> <p>3.2.8 <u>牛白血病ウイルス</u>否定試験</p> <p>3.2.8.1 試験方法</p> <p>体重100～200Kgの健康な牛又は体重30～50Kgの健康な羊を用いる。</p> <p>試料10mLを1頭の牛又は羊の筋肉内に注射し、2及び3か月目に採血して得た血清について、受身赤血球凝集反応、酵素抗体反応又は寒天ゲル内沈降反応により<u>牛白血病ウイルス抗体</u>の検出を行う。</p> <p>3.2.8.2 判定</p> <p><u>牛白血病ウイルス</u>に対する抗体を認めないとき、この試験に適合とする。</p>

(略)

(略)